

「紳士的討論」になぜバルサン(農業)が必要なのか

——誰が民主化斗争の推進者であり、誰が圧殺者であったのか—— 去斗委、アトモ、全共斗による11.17総会の暴力的破壊を告発する。 全学連支拠公議(法学部)

11月17日、法学生部學生の当面の民主化を決意し、守護同盟会開設までの學生臨時代表を選出しみつとして開催された法学生部臨時総会は、法斗委、アトモ、全共斗の後ろに暴力的に破壊された。この件は総会の暴力的破壊は、市大問題を自主的に解決し、民主化を総括内にしそうめざすとする全志摩部學生に敵対するものであり、夏前からの抗戦である。

彼らは16日、この総会に對して、黒板などマニフェストを行ない、彼らの破壊行為を合理化しようとしている。我々はこの悪意に立ち向かうにしなければならぬ。彼らは、紳士的に討論しに来たが、一方的にロックされ、身傷者を生ずる事態につながる。て裏方的に破壊され、身傷者を生ずる事態につながることに入れたかった」と宣伝している。

一部の學生が数日前から総会幹部を圍み、重刀斧群ぐを囲んでおり、又、19法学生部集会が、法斗委、全共斗によつて裏方的に破壊され、身傷者を生ずる事態につながる。彼らの、チラシが直スリてきた際、議長並びに花輪から、彼らのチラシが直スリてきた際、議長並びに花輪は裏方の花輪の危険を感じやむなく、一たん講場を開いたのである。二の直置は、一方の場合は、参加者は、自分の安全と、総会の成功とに責任をもつ議長田口とてどるべき正しく花輪であつた。(このことは、その後の事態の経過が如実に示さう。)

しかし、法斗委、アトモ、あるいはその支持者であるうど、花輪部學生であり、非暴力的に討論に参加しようとすると、花輪の名前にはかり、議長田口二名は、討議に参加する所すべからず、まるで言いよつこい。一方しかし、議長一名は一部の學生にヒリカニヨリ、一方

時に追放され、更に、その学生たちは、総会を「主催者追放不審会にさへ、かえり」とまで言いよつこい。一度その間、バルサンへ花蓮は農業公議へ由へ抜けたとき、会場内は、白い煙と白煙でわかれられた。議長田の討論参加

の説得に対し、彼らの反対は、このバルサンであり、さるにひこうつく、石による窓ガラスの破壊だつたのだ。彼らの暴力的破壊行為のために、総会は「続行不可能」となり、翌日の趣旨に陥る。16日、彼らのひこうしがある。又、総会後、外に出た学生に対して、ほぐる、けるなど、の個人モロを加えた。

彼らほんとうに、「紳士的に討論」してきただのがあつたが? 紳士的に討論するのに何故、バルサンを拒否する必要があるのか。ペルサンは事前に準備されていて、そこには目も)。花輪とはバルサンだと知らぬい關係などと彼らはうそぶく、ほんと部会のいい、ハーネスはどう。しかし、彼らがほんとにおつと、バルサンが

花輪、まれば、こひも抜けーん! 學生は、彼らの勝利でヒモに行動していいのだといつては、さきめじけー専属である。(ス) 彼らは、この総会を認めておらず、其信にふる名前(テニコウ)を「毛毛」と云々しておこなう。そこで、彼らが同じ隊列に含められて、全共斗、又は安田を総会会場にともにひき入れようとしていたことをもがむとしている。既に彼らより「総会でもに代えよう」といわれてもみとれはいといつたがわね! 『臨時代表が出席されてもみとれはいといつてきだ。これは、全共斗がこれまで「学生大会で決定しようと執筆はまじてとか月刊」といつてきだのと並び、しようとした結果はまじてとか月刊」といつてきだのと並びある。このことは、彼らが「民王野球」をどううとも、民主主義を守る意志を全く持つておわせていぢり對を示している。

全ての法学生部友諸君、そして全学の学生諸君、
幸運と正しく見つめこぼし。彼らは15日、総会参加者が投げこまれたバルサンを投げた」とデマをとばした。しかし花輪を知つてこられる総会参加者20名をだます事日未果する「紳士的討論」とはバルサンの事には一切ふれず「紳士的討論しにきたのに一方的にロングアラウトレした」と、デマ宣伝している。月と都合のいい主張だろう。彼らのところを駆り、彼らはバルサンを投げこみ、花輪ラスを割り総会を暴力でもつて破壊する事だったのだ。

彼らの狙いは何か。それは今おし進められている花輪化ミサヒ花輪以外の誰ものでもない。広範な学生な自結し、自治組織と再びし、具体的に民主化をおし進めていく時、彼らがもーとを逃れていくのは、一つの公議は学生の自結なのだ。